

成果の説明書

(氏名) 鈴木 陽子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1)教育活動</p> <p>1 演習1、初年次ゼミ、基礎ゼミ、法学 A、憲法、比較憲法を担当した。事前にパワーポイントの印刷用資料やレジュメを配布したうえで講義を行った。オンライン講義であっても対面講義に近い授業運営を心がけた。オンライン講義の特性であるチャット機能を用いることで学生の積極的な講義参加が可能となったことは、次年度以降の講義方法について考える機会となった。</p> <p>2 基礎ゼミでは、判例研究として簡易な模擬法廷を行うことにより、より深い判例の理解と実態的な視点から権利・義務を考える機会とした。</p> <p>3 演習1はオンラインからのスタートとなってしまったため、書籍を指定し輪読を行うこととした。そのため計画を前倒しにし、卒論を見据えた個人研究に切り替え指導した。</p> <p>(2)研究活動</p> <p>【学会活動等】</p> <p>1 憲法学会理事(2020年10月～)</p> <p>2 憲法学会運営委員(2017年10月～)</p> <p>3 11月28日に本学キャンパスで憲法学会総会・研究集会・役員会(27・28日)を開催した。主催者からの希望もあり、感染症への配慮を十分に行なった上で対面・オンライン併用のハイブリッド形式での開催となった。本学会で初めてのハイブリッド開催となったが、好評を得ることができた。</p> <p>【著書】</p> <p>1 『憲法入門講義』(共著)(一藝社、2021)</p> <p>2 『法学憲法基礎』(共著)(八千代出版、2021)</p> <p>【論文等】</p> <p>1 「在外邦人選挙権判決における立法事実の変遷とその起算点」『地域政策研究』第23巻第2号</p> <p>(3)社会貢献</p> <p>1 埼玉県情報公開審査会 審査委員(2018年4月～)</p>	
2 その他の事項	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>立法事実を用いた司法審査の方法についての研究を進めている。次年度では審査枠組における立法事実の役割からの検討を進め、立法事実の変遷について類型化していきたい。</p>	